

# 路政感想

水野鍊太郎

光輝ある紀元二千六百年を奉祝し永へに之を記念するの歳に道路法施行二十周年を記念するは寔に欣幸に堪へない所である。

曩年道路法施行十周年を記念するに當り概説したるが如く、明治初年以來維新の宏謨に従ひ、諸般の制度は其の面目を一新し、所謂新體制に副ふ所ありしに拘らず、獨り道路に關する制度は雜然として統一する所なく、極めて不備の状態を免かれなかつたのである。然るに道路は國防上、産業上、將又交通上最も重要な作用を爲すの機關であつて、而かも當時の状態は國道すらも橋梁少なく、路幅狭少にして曲折甚しく且勾配急に運輸交通上障碍甚しきものがあつた。夫れ故に政府當局は制度を確立し道路の整備を企て、明治二十一年以來道路制度の調査に着手し、或は公共道路條例或は街路條例と稱し制度案を起草したのであつたが、時到期らず、漸く明治二十九年と同三十二年の兩帝國議會に提案したるも、兩回とも議會の協賛を得ず、爾來一層調査研究を遂げ、道路法案として第四十一帝國議會に提出し、茲に始めて兩院の協賛を得て制度成立の時運に到達し、大正八年四月法律第五十八號を

以て公布し翌九年四月一日より施行せらるるに至つたので、之が運用として第一次國道改良計畫が策せられた。

道路法施行以來茲に滿二十年に達したのであるが其の間關東震災火災あり、又一般經濟界の不況等に災せられて道路改良計畫も遂行することを得ず、失業救済産業振興、農村振興、時局匡救農漁山村應急の政策として幾許の改良は施行せられたるも、未だ以て法の運用を完遂し得るの日の遼遠なるを思ふの憾があつた。

國防上の必要と自動車の急激なる發達は愈々益々道路利用の促進を見るに至り、其の改良整備發達の機運歳と共に勃興して、東海道の如き箱根鈴鹿の險坂の改良、濱名湖其の他の五大橋の架設等着々其の工を告げ、其の他地方の國道府縣道も漸次改良が加へられたるは邦家の爲に慶ぶべきことである。

斯の如く道路の改良整備發達の計畫は財政上の困難ありしにも拘らず相當の進展を見たるも、未だ以て法の運用完璧を得たりと云ふを得ない。特に軌近我國勢は東亞新秩序建設の重任を負ひ、日滿支共榮の大策を完遂しなければならぬ立場に在る。從て空運に海運に陸運に完全なる設備を爲

し相互脈絡調整の喫緊事なるは更に多言を要せずして明かである。之が爲には速かに國道路線網構築の再検討重要地方道路の整理調査鋪裝施工の普及等を遂行し以て新國策に即應して國運の發展に資する所あらしむべく吾人は一段奮勵努力し精進しなければならぬと信ずる。

## 道路法施行二十周年に際して

成 田 一 郎

道路法が大正九年四月に施行せられて以來本年を以て茲に二十周年を迎ふ。其の間に於て路政に對する一般の認識は彌向上し路政當局者の努力と相俟つて我國の道路が逐年改良維持の實蹟を擧げつゝあるは邦家の爲め洵に欣幸に絶へぬ次第である。

惟ふに道路は一國の國防産業の根幹を爲すものである。道路法二十周年を迎へたる本年内外の諸情勢に對處すべく國家總力を發揚すべきの秋今日に勝るものはない。斯る秋に當り道路事業は謂はゞ凡ゆる國家政策の基調をなすもので近時提唱せらるゝ高度國防國家建設と云ひ國土計畫と